

Campus Today



献体のご尊霊に感謝し冥福を祈る



22柱のご尊霊に対し敬意を表し焼香する学生たち

解剖諸霊位慰霊祭

第三十三回解剖諸霊位慰霊祭が六月十日(土)、本館七階講堂で執り行われた。ご遺族、来賓約四十人と第一学年から第三学年の学生約三百五十人、大学関係者ら約十人が参列し、解剖学実習のために本学に献体いただいた二十二柱のご尊霊の安らかなご冥福をお祈りした。

本学では、解剖学実習が第一学年の専門教育科目としてカリキュラムに組み込まれている。前期授業では人体標本を用いて骨や脳の構造、後期授業では解剖実習を通して、人体の諸器官の構造などについて解説が行われる。

解剖学実習においては歯牙・口腔の局所のみならず、全身の系統解剖を行うことにより、学生たちは人体の形態や構造を学ぶとともに、人間の身体の神秘さ・緻密さを肌で感じることが出来る。また、ご献体を自らが出すことで、生命の尊さや人々の善意などについても学び考える機会ともなっている。

慰霊祭では、中田 稔副歯学部長が祭文を語り、人体解剖を学ぶ意義について述べ、二十二柱のご尊霊に対し謹んで敬意を表した。続いて、導師による読経が流れるなか、参列者一人ひとりが祭壇の前で焼香し、静かに手を合わせた。

口腔解剖学第1講座の井上勝博教授はいささつの中で、解剖に対する人々の理解が深まり、生前に献体を申し出る人の数が増えていることについて触れ、「解剖学実習は人体に関する知識を学ぶばかりではなく、多くの方々の協力によって支えられていることを認識する場でもあります」と述べた。

また、学生を代表して第三学年の西脇元則君が、「解剖学実習の中で実際にご遺体と向き合い接することにより、教科書などからは得られない生きた知識を得ることができました。ご献体下さった方々の願いを無駄にしないよう、これから日々勉学に励み、豊かな人間性を兼ね備えた歯科医師となるよう努力いたします」と感謝と誓いの言葉を述べた。

高齢社会や医療の進歩に伴い、人体の解剖は医学・歯科医学においてますますその意義を深めている。そのことを改めて認識する祭祀であった。

研究開発ニーズを提案 企業との交流はかる

歯科医療技術研究会

第七回歯科医療技術研究会が六月十四日(水)、図書館学生ホールで開かれ、本学教員や地元企業の代表者など約四十人が参加した。この研究会は、本学と長野県テクノ財団などが主催し、大学の歯科医療ニーズと地元企業の工業系技術を結びつけて革新的な機器・システムの開発を目指している。

会は医工連携コーディネーターを務める歯科理工学講座・伊藤充雄教授の司会によって進行し、本学の四人の教員が歯科医療分野における研究開発ニーズのプレゼンテーションを行った。最初に歯科理工学講座の永澤 栄助教授が登壇し、現在研

PBLセミナーの成果

ラウンジにポスター展示

第一学年のPBLセミナー「口腔科学」の授業で学生たちが作成した自由課題ポスター七題が、六月二十一日(水)から学生ラウンジに展示されている。

「脳について」「炭酸飲料が身体に及ぼす影響」「ツボって何?」「矯正・インプラントについて」などといったタイトルのポスターが並び、学生各自が調べた内容をイラストや解説図、コピーなどをあしらって発表している。

「口腔科学」のセミナーでは、口腔生理学講座・富田美穂子助教の指導のもと、学生自らが興味あるテーマを設定し、それについて解明した成果をレポートやポスターにして発表・評価してきたが、セミナーだけでなく学内の多

くの教員が出席して医工連携を推進



学生ラウンジに展示されたポスター



究中の歯牙の三次元画像を解説して、三次元画像をもとにした歯学部学生用バーチャル実習システムの実現を要望した。次いで小児歯科学講座の中山 聡講師は、審美性を考慮した乳歯用金属冠について説明し、より天然歯に近い色にするための彩色技術や量産化技術の確立などを課題に挙げた。また大学院顎口腔機能制御学講座の増田裕次教授は、咀嚼時の顎運動を記録し客観的に評価する計測機の改良・開発の必要性を示唆。大学院同講座の山下秀一郎教授は、補綴臨床における新たな計測技術の導入や微酸性電解水の歯科的応用などの課題を提示した。

今回は特別講演も行われ、綿貫国際特許事務所の綿貫隆夫所長が「最近の知的財産の活用について」と題して講演。綿貫所長は、「特許出願書における、特許請求の範囲」の記載内容の重要性を強調し、「一字一句の表現の違いによって内容や請求範囲が変わってしまうので、発明者と弁理士が納得いくまでディスカッションを重ねて吟味することが大切」と説いた。

お天気歳時記

元日本気象協会調査役 お天気コンサルタント 有賀 淳

「五日の明け方からは俄に沛然たる豪雨となつていつ止むとも見えぬ気色があった。それが十二時間の後に、阪神間にあの記録的な悲惨事をもたらした大水害を起さうとは誰にも考へおよばなかった。」

一九三八(昭和十三年)年七月五日の集中豪雨を背景とした谷崎潤一郎の小説「細雪」の一節である。この年の梅雨の豪雨は気象史に残る凄まじいものだった。

七月は、うつつしい梅雨が明けて、日本列島に真夏の太陽の輝く月である。梅雨の明けのは年によって違つが、平均的にみて、七月中旬から下旬ごろになる。つまり、七月は梅雨と盛夏の同居する月といえる。

ところが、「細雪」にあるように、梅雨の後期に入ると集中豪雨が毎年のように日本のどこかを襲つ。梅雨明けぎわのひと荒れである。日本の宿命のようなもので、一度はその洗礼を受けないことには、楽しい盛夏は訪れてはくれない。梅雨末期の豪雨としては歳時記などでよく知られている「虎が雨」がある。建久四年の五月二十八日(現行暦七月五日)の夜、豪雨の中で曾我兄弟の敵討ちが行われた。その時十郎の愛人、虎御前の流した涙をいったものである。一九七四(昭和四十九)年七月七日、参議院の「七夕選挙」の時、静岡市で六時間に五〇〇ミリもの豪雨をはじめ、各地で記録的な「七夕豪雨」となり、大災害が起きた。太陽暦の七夕のころはまだ豪雨の季節である。二十三日は暦の大暑。大暑から数えて半年めにあたる。梅雨から盛夏へバトンが渡されるころにあたる。

第三種郵便物認可

協力型臨床研修施設と 研修歯科医とがマッチングを行う

初期臨床研修を終えた研修歯科医が今後、四力月間（七月一日開始）プログラム A、十一月一日開始）プログラム B）臨床研修を行う協力型臨床研修施設を決めるために、両者間で面接などによるマッチング（院外）が六月十八日（日）、本学図書館学生ホールで行われた。当日の参加者は研修歯科医が三十一人（プログラム Aが九人、Bが二十二）で、協力型臨床研修施設も三十一施設であった。

や委任参加者の資料などを参考に、プログラム責任者（A・黒岩昭弘教授、B・上松隆司助教授）を中心にマッチング作業を行い、院外での臨床研修先が決定され、その結果が通知される。

なお、マッチングに先立って創立三十年記念棟「常念岳」の間において、研修管理委員会が同日の午後一時三十分より開催された。同委員会を構成するすべての協力型臨床研修施設（七十施設）、研修協力施設（二十六施設）および学内委員十五人全員らが出席（委任状出席を含む）した。

会議の冒頭では、甘利光治委員長（病院長）から、無事に研修が始まり順調に進捗している報告に併せて、研修環境を整備するにいたるまでの協力型臨床研修施設、研修協力施設等、学内外の関係者に対して、これまで

5人が研究成果を熱弁 大学院中間発表

大学院中間発表

第四回大学院歯学独立研究科中間発表会が五月三十一日（水）、実習館二階総合歯科医学研究所セミナー室で開かれ、教員や大学院生など約五十人が詰めかけた。

この中間発表は、博士課程教育プログラムの一環として発表することを目指す。発表者が現在取り組んでいる



発表する金山さん

研究の主旨や成果を発表し、指導教員以外の多くの教員からも評価や助言を得ることに、研究の完成度を高めることを目的としている。

小澤英浩研究科長の開会あいさつで始まり、第四学年・顎口腔機能制御学講座・咀嚼機能解析学の秋山志穂さんと金山集人さん、第三学年・硬組織疾患制御再建学講座・臨床病態評価学の片芝辰也さん、田中匡さん、村上由見子さんの五人の大学院生が研究成果をプロジェクターを用いて十五分から二十分間で説明した。

五人とも、聴講者の質問に自分の考えを堂々と述べ、活発な質疑応答がなされセミナー室は熱気に包まれた。



和やかに面談を行う施設代表者と研修歯科医

面談は緊張した雰囲気には包まれつつも、時には笑みもみられるなかで、熱心に行われた。

今後、面談結果の資料

主張 夏休みを有意義に過ごす

キャンパスから仰ぐ北のスカイラインにアルプスの残雪の輝きが眩しい季節となった。新入生諸君にとって、海拔七百メートルの高原での寮暮らしはいかなるものだったろうか。はじめて父母の膝下を離れて、ホームシックや五月病に悩んだ人もいたかも知れないが、この爽やかな光と風のなかで大学生としての学園生活を精一杯エンジョイしてほしいと思う。

物理学や化学などの基礎的な科学や一般教養科目が主体となっている低学年次では、まだ勉学の目的が漠然としているかもしれないが、それならこの研究室でも臨床講座の医局でもいかに「ちょっとのぞかせてください」と遊びに行くのがよい。偉そうな教授や助教授の先生方も大半は本学の卒業生であり、諸君の先輩なのだから遠慮することはない。

先輩といえ、本学OBは日本全国ほとんどこすべての地域で活躍している。そこで夏休みに

帰省した折には、最寄りの先輩をお訪ねすることを勧めたい。筆者が講義を担当していた頃には、休暇中の課題として医療機関と社会福祉施設の見学レポート提出を義務付け、見学に際してのエッセイなどもあつた。

帰省した折には、最寄りの先輩をお訪ねすることを勧めたい。筆者が講義を担当していた頃には、休暇中の課題として医療機関と社会福祉施設の見学レポート提出を義務付け、見学に際してのエッセイなどもあつた。

キャンパスから仰ぐ北のスカイラインにアルプスの残雪の輝きが眩しい季節となった。新入生諸君にとって、海拔七百メートルの高原での寮暮らしはいかなるものだったろうか。はじめて父母の膝下を離れて、ホームシックや五月病に悩んだ人もいたかも知れないが、この爽やかな光と風のなかで大学生としての学園生活を精一杯エンジョイしてほしいと思う。

物理学や化学などの基礎的な科学や一般教養科目が主体となっている低学年次では、まだ勉学の目的が漠然としているかもしれないが、それならこの研究室でも臨床講座の医局でもいかに「ちょっとのぞかせてください」と遊びに行くのがよい。偉そうな教授や助教授の先生方も大半は本学の卒業生であり、諸君の先輩なのだから遠慮することはない。

先輩といえ、本学OBは日本全国ほとんどこすべての地域で活躍している。そこで夏休みに

帰省した折には、最寄りの先輩をお訪ねすることを勧めたい。筆者が講義を担当していた頃には、休暇中の課題として医療機関と社会福祉施設の見学レポート提出を義務付け、見学に際してのエッセイなどもあつた。

帰省した折には、最寄りの先輩をお訪ねすることを勧めたい。筆者が講義を担当していた頃には、休暇中の課題として医療機関と社会福祉施設の見学レポート提出を義務付け、見学に際してのエッセイなどもあつた。

キャンパスから仰ぐ北のスカイラインにアルプスの残雪の輝きが眩しい季節となった。新入生諸君にとって、海拔七百メートルの高原での寮暮らしはいかなるものだったろうか。はじめて父母の膝下を離れて、ホームシックや五月病に悩んだ人もいたかも知れないが、この爽やかな光と風のなかで大学生としての学園生活を精一杯エンジョイしてほしいと思う。

物理学や化学などの基礎的な科学や一般教養科目が主体となっている低学年次では、まだ勉学の目的が漠然としているかもしれないが、それならこの研究室でも臨床講座の医局でもいかに「ちょっとのぞかせてください」と遊びに行くのがよい。偉そうな教授や助教授の先生方も大半は本学の卒業生であり、諸君の先輩なのだから遠慮することはない。

先輩といえ、本学OBは日本全国ほとんどこすべての地域で活躍している。そこで夏休みに

帰省した折には、最寄りの先輩をお訪ねすることを勧めたい。筆者が講義を担当していた頃には、休暇中の課題として医療機関と社会福祉施設の見学レポート提出を義務付け、見学に際してのエッセイなどもあつた。

帰省した折には、最寄りの先輩をお訪ねすることを勧めたい。筆者が講義を担当していた頃には、休暇中の課題として医療機関と社会福祉施設の見学レポート提出を義務付け、見学に際してのエッセイなどもあつた。

帰省した折には、最寄りの先輩をお訪ねすることを勧めたい。筆者が講義を担当していた頃には、休暇中の課題として医療機関と社会福祉施設の見学レポート提出を義務付け、見学に際してのエッセイなどもあつた。

帰省した折には、最寄りの先輩をお訪ねすることを勧めたい。筆者が講義を担当していた頃には、休暇中の課題として医療機関と社会福祉施設の見学レポート提出を義務付け、見学に際してのエッセイなどもあつた。

帰省した折には、最寄りの先輩をお訪ねすることを勧めたい。筆者が講義を担当していた頃には、休暇中の課題として医療機関と社会福祉施設の見学レポート提出を義務付け、見学に際してのエッセイなどもあつた。

第三種郵便物認可

法人役員選任



理事長・学長 矢ヶ崎 康
 常務理事(学事担当)学監 川原 一祐
 常務理事(財務担当) 香西 敏男
 専務理事 矢ヶ崎 雅
 理事 橋口 純徳
 理事 高瀬 吉雄
 理事 小出 久
 理事 西連寺 愛憲
 理事 佐藤 道夫
 監事 渡辺 宏
 監事 大徳 宏教
 常務理事(総務担当) 田中 正治

大学院第2学年

森山敬太さんが GORR研究会で口演発表

GORR研究会で口演発表

五月二十七(土)・二十八日(日)に神奈川県横須賀市の自然・人文博物館で開催されたGORR研究会で、大学院第二学年の森山敬太さんが「歯科医学から見たボウズハゼの上顎歯」という演題で口演発表を行った。GORR研究会は、淡水にすむハゼ類が通称「ゴリ」と呼ばれていることから命名された研究会である。会員数は百名程度だが、ハゼの分類や生態の研究に関して著名な学者が多い。

以前より私たちは、歯の発生過程が同一の個体で観察できる



ボウズハゼの上顎歯の模式図

動物はいないだろうかと考えていた。ある日、検索していたウェブサイトで奇妙な一枚の模式図に出合った。それが、三十年前に福井正二郎氏(現在九十歳)の書かれたボウズハゼの上顎歯の模式図である。ボウズハゼはアユと同じ様に付着藻類を専食するため歯の摩耗が激しく、九日に一回のペースで歯の交換が起る。このため、機能歯と交換歯を合わせると約三千、四千の歯が上顎に常に存在している。研究は、東京大学海洋研究所の先生たちと一緒に和歌山県の太田川で昨年の十月末ごろからボウズハゼを採取することから始めた。その折、福井正二郎氏の自宅に十日間も泊めてもらい、百七十匹のボウズハゼを採取することができた。この研究を始めてまだ半年であったが、共同研究者の東大の海洋研の渡邊 俊先生からの強い依頼もあり、今回の研究会ではマイクログラフを用いた三次元立体構築像のデータをメインに発表した。たまたま今回の研究会に御出

席されていた天皇陛下から、研究会終了後に「歯も面白いですね」とのお言葉を頂き、森山君は感激していた。私は、天皇陛下の前で二十分以上の口演発表を淀みなく行なった森山君の姿を見て誇らしく思った。



左から渡邊博士、福井氏、佐原教授、森山さん

体も心も リフレッシュ

衛生学院研修旅行

私たち衛生学院歯科衛生士科第二学年の研修旅行は、六月十四日(水)から十六日(金)の二泊三日の旅で、東京、横浜、千葉の三カ所を巡った。

一日目は天候に恵まれ、品川プリンスホテルでバイキングの朝食をとり、お腹を満たした後は、横浜へ。中華街を散策して「よしもおもしろ水族館」を見学した。中華街にあるこの水族館は、ちょっとレトロな中国の小学校をイメージした内観で、展示に趣向を凝らして話題を集めている。海が身近にない私たちにとって、珍しい魚を見る事はとても新鮮で驚きの連続だった。夜はディナークルーズで船上での食事と横浜港の景色を満喫した。

二日目はあいにくの雨だったが、「夢の国」である東京ディズニ

ズニリゾートへ。アトラクションを楽しむ者、買い物を楽しむ者、パレードに参加する者、それぞれが有意義なひと時を過ごした。また、夜はディズニリゾートのホテルに宿泊し、一日中夢のような気分を味わうことができた。

最終日はお台場散策。バスを降りると同時に、思い思いに目的の場所へと向かい、自由時間を楽しんだ。帰りたくないと思う反面、そろそろ長野県が恋しくなってきた。四月から臨床実習や国家試験に向けて忙しい毎日を送るなか

大学生生活の 向上を図る

三者面談を開催

本年度最初の三者面談が開催され、第一学年から第五学年は六月十七日(土)体育館において、第六学年は十八日(日)に本館一階自習室においてそれぞれ行われた。

この三者面談は、学生とご父母と大学が連携を取り合い学生たちの大学生活をフォローする趣旨から行われている。今回、学生とご父母らの参加数は、第一学年から第五学年が三百三十七組で、第六学年Aクラスが六十組であった。

まず、各学年のクラス主任が個別に学生・ご父母と面談。第一学年から第四学年には、毎週実施しているウィークリーテストの結果と出席状況など、第

この三者面談は、学生とご父母と大学が連携を取り合い学生たちの大学生活をフォローする趣旨から行われている。今回、学生とご父母らの参加数は、第一学年から第五学年が三百三十七組で、第六学年Aクラスが六十組であった。

まず、各学年のクラス主任が個別に学生・ご父母と面談。第一学年から第四学年には、毎週実施しているウィークリーテストの結果と出席状況など、第



担当教員と面談する学生と保護者

ディズニランドで楽しむ学院生たち

五学年には、加えて模試の結果第六学年にはディズニテストの結果などについてそれぞれ説明するとともに今後の学習のあり方をアドバイスした。

さらに科目ごとの詳細な情報を希望する方については、科目担当の教員が面談した。

今回の面談では、ご父母から建設中のキャンパスインの見学希望があり、完成の時期、設備や費用に関する質問などが出され、生活面における関心の高さがうかがえた。

この面談をもつて、学生本人・ご父母・大学ともに、さらに確実な基礎固めができるよう今後の大学生活に向け、さらに連携を深めていくことになる。



第6回 摂食・嚥下障害セミナー開催

「藤田保健衛生大学の摂食・嚥下リハビリテーション」

講師：馬場 尊先生(藤田保健衛生大学衛生学部リハビリテーション学科教授)
 日時：7月12日(水) 19:00~20:30
 会場：松本歯科大学30年記念棟 3階「常念岳」
 受講料：無料
 申し込み先：松本歯科大学障害者歯科学講座 三井 貴信
 TEL/FAX 0263 51 2115

校友会卒後研修セミナー開催

「歯周組織再生療法の基礎と実際」

講師：申 基岳先生(明海大学歯学部口腔生物再生医学工学講座歯周病学分野教授)
 日時：8月20日(日) 9:30~16:00
 会場：松本歯科大学図書会館 学生ホール
 受講料：歯科医師15,000円 歯科技工士・歯科衛生士5,000円(昼食・飲食代含む)
 申し込み先：松本歯科大学校友会事務局
 TEL 0263 54 1432 FAX 0263 54 1087

Economic News

内外の経済 6月28日付

日本	14,922.91円	米ドル	116.30円	3.81%
米国	10,973.56ドル	英ポンド	211.80円	2.82%
▶金地金店頭価格(消費税込み)		ユーロ	146.15円	1.29%
売り(1グラム)	2,317円	スイスフラン	93.55円	0.01%
買い(1グラム)	2,255円	タイバーツ	3.03円	0.01%
▶白金地金店頭価格(消費税込み)		日 円		0.02%
売り(1グラム)	4,708円			(シティバンク調べ)
買い(1グラム)	4,583円			

東京外国為替相場と各国定期預金金利(3カ月物)

28日(金) 一日体験入学(衛生学院)
 28日(金) 8月27日(日) 夏季休業(歯科衛生士科第1学年)
 31日(月) 8月27日(日) 夏季休業(歯科衛生士科第2学年)
 31日(月) 8月20日(日) 夏季休業(大学院)

7月行事予定

1日(土) 松本歯科大学学生会総会
 第62回
 6日(木) 全日本歯科学学生総合体育大会 夏期大会壮行会
 第38回
 22日(土) 一日体験入学(歯学部)
 25日(火) 8月20日(日) 夏季休業(第5学年)
 28日(金) 夏季休業(第1学年)

受験生の皆さんへ

見せてほしい 君の個性 君の情熱

一日体験入学
 7月22日(土)
 9:45~16:00

入試概要説明 学内見学
 模擬実習 進学相談 など予定
 参加希望者は専用申し込みハガキで7/18(火)必着までにお申し込みください。
 専用申し込みハガキは下記までご請求ください。

お問い合わせ
 HOT LINE 0263 54 3210
 松本歯科大学 広報課
 www.mdu.ac.jp